

## プール掃除

6月25日(金)6年生13名と教職員でプール掃除をしました。昨年の夏から、ずっと使っていないので、プールの水は濃い緑で、オタマジャクシ、アメンボ、何だかわからない水生生物、木の葉っぱ等々がたくさん浮かんでいる状態でした。さすがの6年生からも、「汚いからいやだなあ。」という声も漏れ聞こえていました。

しかし実際に掃除にかかると、バケツリレーでプールの水をフェンスの外に捨てたり、排水溝にたまる枯れ葉を手で取り除いたり、汚いなと思えることも我慢してくれました。

いったん汚い水が排水されると、後は、プールの側面や床磨きとなり、水の冷たさが心地よく、笑顔で楽しそうにしていました。そして最後には「プール掃除、楽しかったあ。」という声が聞かれました。

最初はいやだと思っていたことでも、やってみると意外と面白かった、楽しかったということがあります。「いや」だから「しない」でなく、「いや」でも「やってみよう」の気持ち大切です。特に小学生くらいの幼いうちは、好き嫌いだけで判断するのでなく、多様な経験を積んでみる、土台を広げ経験値を上げることが必要だと思います。

週明けの月曜日に提出された週末作文には、「6年生だけ金曜日残って先生たちと一生懸命きれいにしたプールで、みんなが喜んで入ってくれるのが一番楽しみです。」と書いている6年生がいました。

きれいに磨いたプールに水が張られ、プールがプールらしくなりました。見ているだけで涼しくなります。月曜日の全校集会で全校児童の前で、6年生が頑張ってくれたことに感謝しました。

水泳は、克服型の運動です。何度も何度も練習し、苦しい思いを乗り越え、25メートルを泳げるようになります。泳げなかった児童が練習を積んで泳げるようになる瞬間は、自然とクラスのみんなから拍手が起こり「よかったね。」「頑張ったね。」の声が上がります。今年もそんな声が聞こえる水泳の授業になってほしいと願っています。



令和3年6月  
松波小学校 校長 前田 稔子